



平成26年11月7日

国土交通省中部地方整備局

清水港湾事務所

## 海外港湾技術者 清水港の景観保全を視察 ～富士山と調和した港に興味津々～

### 1. 概要：

現在、独立行政法人国際協力機構（JICA）が主催する平成26年度集団研修の一環として全国の港の視察をしています。

14カ国18名の研修員を国土交通省中部地方整備局清水港湾事務所が受け入れ、清水港の概要について説明しました。さらに、日本での先進的な景観の取り組み事例である「清水港みなと色彩計画」について、当事務所の港湾業務艇に乗船して、本色彩計画に主体的に取り組んでおられる東海大学海洋学部の東 恵子（ひがし けいこ）教授から説明していただきました。

参加した海外港湾技術者は、富士山の景観に配慮している点や、景観保全の取り組みを学べてよかったと満足していました。

※ JICA集団研修は、開発途上国のそれぞれの国が取り組んでいる港湾政策について、研修員相互が討論し成果を自国に反映させ、各国の港湾にかかわる諸問題の解決と社会経済の発展に寄与することを目的として実施しており、国土交通省港湾局が1963年から研修員を受け入れています。

### 2. 日時及び場所

日時：平成26年11月5日（水） 13：10～15：30

場所：国土交通省中部地方整備局室及び清水港内（船上）清水港湾事務所会議

### 3. 研修の様子

別紙

4. 配布先： 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、静岡県政記者クラブ  
静岡市政記者室、港湾空港タイムス、港湾新聞、日本海事新聞、海事プレス

### 5. 問合せ先：

国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所 企画調整課長 野村

電話054-352-4148

## 6. 研修の参加者と当日のスケジュール

(1) 出身国：14カ国（ブラジル、ブルンジ、カンボジア、コートジボワール、エルサルバドル、ガボン、インドネシア、ケニア、ミャンマー、パプアニューギニア、フィリピン、ベトナム、カメルーン、タンザニア）

### (2) 当日のスケジュール

午前中

日本平ホテル庭園から清水港全景視察

午後

当事務所の港湾業務艇に乗船して清水港視察（清水港みなと色彩計画の説明）（45分）

清水港概要の説明と質疑【事務所会議室】（50分）

## 【参考】

みなと色彩計画推進協議会ホームページより抜粋

### 世界に誇る美しいみなとまちづくり 「清水港・みなと色彩計画について」

清水港は、全国に先駆けて民間企業や行政との連携により美しいみなとづくりを行っています。

平成3年から現在まで21年間の民間企業や行政など関係者の思いの積み重ねが、港まちの景観に厚みを加え、現在の、コンテナクレーンなどの技術と景観とが調和した美しい清水港を作り上げています。

清水港・みなと色彩計画が始まった当時から、色彩計画によるみなとづくりはもちろん、民間企業の協力による取り組みは革新的な行いでした。

## 1. 清水港・みなと色彩計画ー活動の背景・経緯ー

清水港は政令指定都市静岡市の港であり、神戸港、長崎港と並び日本三大美港の一つと評される港です。また、天女伝説の三保の松原や富士山を借景とした日本を代表する素晴らしい風景を持つ静岡県の国際拠点港湾です。しかし当時は他の多くの港と同様に、紅白の煙突や老朽化したタンクや倉庫が建ち並ぶ殺伐とした港であり、その素晴らしい風景が活かされていない港でした。

そこで平成2年、工業地化し市民が立ち寄りなくなった港湾空間に生活機能を回復することを目的とする、20代～60代の女性23名で構成された「レディズ・マリン・フォーラム」が立ち上げられました。このフォーラムでは、「食べる」「憩う」「見る・景観」の視点で分科会を設け、1年間のワークショップを行い、「レディズ・マリ

ン・フォーラムレポート」として提言を行いました。その提言をもとに、費用がかからず実効性のある計画として、平成3年に「清水港・みなと色彩計画」が策定されました。

## 2. 清水港・みなと色彩計画－概要－

平成3年に開かれた「清水港・みなと色彩計画策定委員会」により、臨港地区の500haを港湾機能や将来方向に応じた、それぞれの地区毎にまとまりをもった色彩方針が立てられ、美しい自然景観と調和した人工景観を創出しようという目的のもと、平成4年度から本計画が実施されました。その地区の建築物、工作物等をそれに即した色彩に塗り替えることにより、住む人、働く人、訪れる人々に快適で活気のある、個性あるみなとづくりを行うことを目指しています。

計画の実施にあたっては、港湾関連事業者の自主的な取り組みによる届け出制をとっています。当初は塗り替えに費用がかかることや企業に独自のCI(コーポレートアイデンティティ)があることから対象企業の6割強もの賛同が得られず計画の実効性が懸念されました。このため、協力を得やすい色彩構成の提示、色彩計画推進協議会・アドバイザー会議、企業の相談に応じやすい体制などの仕組みがつくられ、協議案件のある企業にはアドバイザーが出向きCG(コンピュータグラフィックス)などを用いた、それぞれの企業の個性や独自性を活かしながら周辺環境との調和を図るような提案を行いました。

この結果、港湾施設・工作物の塩害防止のために5～7年毎の更新時期に合わせて周辺環境に調和した塗り替えが行われ、年間30～50件の塗り替え相談が行われるようになりました。清水港は物流ヤードや冷凍倉庫群、LNG(液化天然ガス)基地、製造工場群、海水浴場まである多機能な港であり、人のにぎわい空間の日の出地区の対岸にはタンク、煙突、ベルトコンベアの工場群が見えます。この色彩計画の実施により、これらの産業景観を洗練された風景に演出しています。

この計画の特徴の一つとしてシンボルカラーの設定があげられます。シンボルカラーは、「美しいみなとづくり」のイメージをリードする役割をもたせ施設・工作物に必ず一部に設置することをお願いしています。

また、清水港の景観として象徴的な機能をもつ施設には、港のシンボルカラーであるアクアブルー(10B7/8)とホワイト(9.5N)で配色計画を行っています。このシンボルカラーの設定は計画策定時、市民・企業の清水港の将来求めるイメージとして挙げられた「刷新した、真新しい」の意味を持つ色として抽出しています。

(別紙 1)

**清水港**



**清水港と富士山の美しい風景(資料写真)**



**日本平からの見学の様子**



**清水港概要説明の様子**



**港内視察の様子**



**港内視察後の集合写真の様子(1)**



**港内視察後の集合写真の様子(2)**

## （研修生の視察状況）

### ○（日本平にて）

景勝地である日本平では、日本平ホテルによる協力のもと、6Fテラス及び庭園からの景色を見学しました。この日は、富士山を眺めることができ、研修生の皆様には、色々な風景を見ていただいたことを通して、日本の文化を理解し、楽しんでいただけたのではないかと思います

### ○（事務所会議室にて）

清水港の概要についての説明と、トピックとしてみなと色彩計画、世界文化遺産に登録された富士山についての紹介を行いました。質疑応答も活発に行われ、「なぜ、みなと色彩計画で色をそろえるのか。」、「新興津コンテナターミナルの面積や年間の取扱量は。」、「新興津コンテナターミナルでどれだけのコンテナが扱えるのか。」など様々な質問が出されました。

### ○（港湾業務艇による港内視察にて）

港内を周回しながら、「清水港みなと色彩計画」のアドバイザーを務めている東海大学の東教授より、同計画の狙いと進捗状況などの説明を受けました。研修生からは「なぜ、みなと色彩計画は青と白に決まったのか。」、「なぜみなと色彩計画で色を揃えるのか。」など活発な意見・質問が出され、同計画に非常に興味を持って頂けたと思います。

### ○（研修後の感想）

研修後に研修生に感想をお聞きしたところ、「とても港がきれいで船上でいろいろな施設を近くで見れてよかった。」、「船で港湾を見せていただいて勉強になりました。」、といった感想を述べられました。また、「清水港でこのような研修を企画してもらい、大変よかった。」と感謝をされました。